

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかという問題の正答率は高かった。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が低い。 ●問いがわかっていないため、正答できない場合があると思われる。(読み取る力が低い)	・「誰に」「何のために」書くのかを意識して書く活動を取り入れ、目的(説明、報告、意見、感想など)に応じた文章の書き方(箇条書き・文字数の制限・○○という言葉を使ってなど)ができるようにする。 ・接続詞に注目して、根拠と理由をはっきりさせて話したり書いたりさせる。 ・他者との対話や発表の活動を充実させ、伝えたいことの明確化と表現の選択の必要性を実感させる。
算数	○どの領域も全国平均を上回っている。 ●台形の意味や性質について正しく理解しているかをみる問題での正答率が低い。	・一つの図形を真上、真横など、複数の視点から考察する活動を取り入れ、さまざまな図形を関連付けて捉える力をつけるような学習にする。 ・授業中にグラフや表がでたら、(①表題、②縦軸、③横軸)のように、おさえる手順を確認する。
理科	○「生命」を柱とする領域は、全体的に正答率が高い。 ●問題から必要な情報を読み取る力が低い。	・対話をしながら、学ぶ場面を増やしていく。 ・一問一答形式ではなく、根拠や理由を説明する場を設ける。 ・問いを発見し、この実験は何のためにに行っているかを考えながら学習ができるよう、声掛けをしていく。

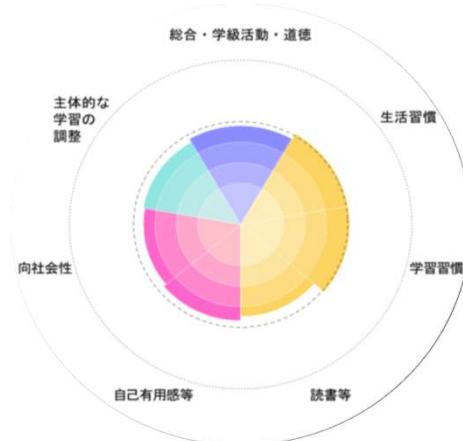
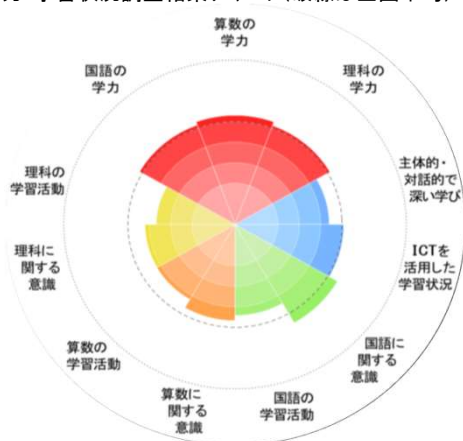
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○ICTを授業で使用している頻度は県平均を大きく上回っている。 ○自分にはよいところがあると思うと回答した児童が多い。 ●読書は好きと答えた児童が少ない。	・職員間で実践事例の共有を行い、児童がICTの有効的な活用ができるようにする。 ・読書に触れ合う時間を確保するために、家庭への呼びかけを行ったり、図書館利用の時間を計画的に取り入れたりする。 ・自己肯定感が高まるような声掛けや、自信をつけるための段階的な学習を取り入れる。(スモールステップ)

(3) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・児童同士のやり取りや学び合いの場面にICTを有効活用して深い学びにつなげていく。 ・研究にあわせて、言葉を豊かにする活動を継続的にやっていく。
------	---

(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

102 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5) 質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

